

議 事 録

会議名	平成22年度第1回寒川町まちづくり推進会議		
日 時	平成22年7月14日（水）午後4時	開催形態	公開
場 所	寒川町民センター3階講義室		
出席者	<p>委員：宇條委員、管委員、各務委員（副会長）、川上委員、柳下委員、藤沢委員、木立委員、江積委員、脇委員、佐藤(一)委員、飯田委員、佐藤(武)委員、奥山委員、斉藤(進)委員（会長）</p> <p>事務局：田代町民環境部長、樋口町民課長、大野木主査、宮崎主査 （欠席者：芳谷委員、久保川委員、斉藤(正)委員、田沼委員*、島村委員、中村委員）</p> <p style="text-align: right;">*久野氏が代理出席</p>		
議 題	<p>「協働」の具体的取り組みについて ～市民活動サポートセンターを視察して～</p>		
決定事項	<p>○ 会議の前段に実施した茅ヶ崎市民活動サポートセンターの視察結果を踏まえながら、住民活動を活発にするための場をどう考えていったらよいか議論。</p> <p>⇒ 町民がまちづくりや協働自治を主体的に考えていく場、あるいはいろいろな団体がどんなことをやっているのか相互に情報交換する場、情報提供する場、町民活動を応援する拠点というものは、充実したほうがよい（いつ作るのか、どこに作るのか、といったことは別として、考え方としてそういう場は必要）という方向性について考えを共有した。</p> <p>⇒ これからのまちづくりを考える時に、町民が町民の発想や考え方をもとにして、いろいろと取り組む時代になっていく。その意味で、住民活動する人や団体が交流する機会をどう作っていけばいいのか、新しいテーマで交流するような機会、交流する場をどうやって作ればいいのかというところを、既存の施設の活動団体のデータを把握しながら、今の委員の任期中に考えていくという方向性を確認した。</p> <p>※ 議事録承認委員の指名 ⇒ 藤沢委員、木立委員</p>		

議 事

「協働」の具体的取り組みについて～市民活動サポートセンターを視察して～

(会長) 前回いろいろ議論が出て、一つのテーマとして、市民活動が行われている交流の場とか、市民活動の内容を情報提供する場とか、あるいは情報提供を協力に進める方法とか、具体的にサポートセンター等活用した協働のまちづくりの推進とか、そういう多くの方々が活動するような場、情報交流する場、相互に活動を知る場・学習する場・学ぶ場を考えて見たらどうかということで、そのためには具体的な場所を視察してその実態を踏まえながら、寒川の場合はどういった形で住民活動を活発に、あるいは支援したり交流したりしていけばいいのか。あるいはそのための場というのはどう考えたらいいいのか。そういった課題が一つあった。

それから条例の中にある住民投票の件については、今後研究を進めていこうというようなことがあった。

今日は、視察を踏まえながらそういう場をどう考えていったらいいのかを議論していきたいと思う。その前にこの推進会議は、我々今年度で任期が終わるわけで、1年目いろいろ議論してきた中で2年目それを具体的な事業・活動・アクションに結び付けていく必要があると思う。そういうことを前提に、具体的な町民活動を推進するためのアイデアをここで意見集約できればありがたい。その辺も踏まえ議論していただくのがいいかと思う。市民活動・情報交流・活動交流、それを活かしながらまちづくりを推進するためにはどんなことが必要なのか、あるいはどんなことをここで考えていくのか、どんな可能性がありそうなのか、その辺を自由にお話ししていただければと思う。

(江積委員) 目から鱗というか、たいへん素晴らしい活動内容の提示というか、内容がわかるようなものになっていてたいへん感動した。それについては、先ほど会議前に柳下委員から、空いた施設の利用を提案したにもかかわらず予算の問題等でできなかったとか。今後町としてどう対応していってもらえればいいのか。

(会長) 先ほどの町民センター1階について、経緯を詳しく教えていただけないか。

(柳下委員) 自治基本条例が出来て、協働のまちづくりという理念を掲げてはいるが、その居場所として私は寒川町に住民活動サポートセンターが必要だと思った。その時には、町民センターが空くということで利用したらいいかと思って、一般質問の中に盛り込んだ。町側が、まだ自治とはなんぞや協働とはなんぞやという理解が本当に薄くて、条例は出来たけれども寒川町はまだまだこれから、でも手をこまねいて

いては大事な住民自治ということが根付かないので、私は居場所というところを考えてそこがいいのではないかと言った。しかし、町民センターは法的には社会教育施設であって生涯学習の場ではないというのが、担当職員の見解だった。法的に違うということでブロックがかかった、というのが経緯。

(会長) 今は違う施設が入っているのか。

(柳下委員) 教育研究室が入っている。

(会長) 後で行政の件は聞きますが、まずは我々のほうで議論していきたい。お二人から意見が出ているがどうか。

(管委員) 今日待望の見学をさせていただき、答えとしてはなるほどと思った。まずやってみようということで、茅ヶ崎市はやられた。やってみれば何か拓けてくる。すごいなと思った。寒川町として、町の状況を把握した上で状況にあったものが何だろうかということ、皆さんもお考えになったと思うが、柳下委員からお話があったあその場所は、その前は図書室、その後は談話室みたいに使っていた。今回いわゆる耐震の問題があって公民館が使えなくなった。その余波で柳下委員が提起した話も叶えられなかったのかなと思った。我々が体制として一つ欲しいと全員が考えるのであれば、それが町民のためになることであれば、今研究室になっているかもしれないが、どちらが大事なのか、今何をやればいいのか、その辺の話をまとめてこの会として提起も出来るのかなと思う。町から委嘱を受けた我々がそれをなんとかまとめるべきだとなれば、少しは話を通してもらえるのではないかと思った。

(木立委員) 今回サポートセンターに行かせてもらった中で、まず協働のまちづくりという考えがあって、まずは実際活動している団体とかも見てみましょうということもあって視察ということになったが、市民活動サポートセンターを寒川にというのは、ちょっとまだ話がずいぶん飛んでしまっているのかなと思う。まずいろいろな団体の人からそういう要望があるのか、そこも把握していない今の段階で、そのような話をするのは飛んでしまっていると感じる。まずそういう人達が、今現在いろいろな団体の横の繋がりを広げて行くということが大切ではないか。それには、まず繋がり・ネットワークを深めるのに、例えば全部の団体が集まれる場があったほうがよりいいと思うが、まずトップだけでも集まれるような仕組みなり場なり、そういった現状でも出来ることあるだろうから、そういった中でサポートセンターみたいなものが必要だと意見が出てくるのであれば、またそのような考

えもあるだろうけど。会議の回数が決まっている中で、現実からずいぶん離れてしまっているなど感じる。いろいろ調整しなければいけない部分もものすごくあるような議案になってしまうので、ちょっとここで考える枠としては適していないのではないかな。

(会長) そういう視点も大事なので、そういうことも含めて議論していきたいと思う。

(管委員) この場で今の話をまとめて提供するというようなことではなくて、考え方としてそういうことも考えておかななくてはいけないのかなという考えでどうか。

(木立委員) どうやってPRしていこうかといった話でここまできているのに、また方向転換されてしまうというのはどうか。

(管委員) すぐにそっちの方向にいかないまでも、視野に入れておく必要があると思う。この場で具体的に決めることではなくてもいい。行政の中にもそういうことがあるよと、存在を確認しておくことが必要だと思う。

(佐藤-委員) 冒頭会長からも、アクションをおこす、繋げていくべきではという話もあった。私もこの会議がどうどう巡りになっていて、ここで理屈を積み上げていってこういうものを作ろうというのはなかなか難しいなというのがある。その中で、町民が協働でできるものは何かないのかというものを考えた時に、今回の視察は良いヒントだったと思う。具体的にそれを進めていくには、最初は町へある程度のインフラは求めていくべきと思う。このサポートセンター以外にも、もしかしたらあるのではないかという気がするが、ただなかなかニーズというのをどれだけ捉えられる期間があるかというのは難しいというのがあって、少なくとも代表で公募の方も出てきているので、その人達がこういうの必要だねと思ったら作るべきではないかという感じがしている。

(脇委員) 茅ヶ崎市にいいのがあるからといって、いいとこ取りをしてくれって言ったって、それは無茶だ。今寒川に南部と北部に公民館があるが、その利用状況だって皆さん把握できてない。南部と北部、それに中部にある公民館をもう一度ちゃんと造り直させて、そこをきちんと利用した上で、サポートセンターという別個のものをまた考えるような方策じゃないと進まないよ。行ってみたら立派だから良いに決まっている。片方は23万4千人もの人口で寒川は10年経っても4万7千人で動かない。そういう中で考えていくものなんだから、今北部・南部・中部と公民館の利用状況等やってみて足りないものは何か、

もう少しやってみてからじゃないと。

(佐藤-委員) 機能を持たせるっていうことは必要。機能だけ、正直あんな規模なんて誰も想像していないのではないか。

(宇條委員) 参議院選挙の投票率、新聞で見ると寒川町は悪い方から数えて5番以内に入っていた。寒川町民というのは、自分達で意見を言って行政を変えていこうという意識が弱いのかな。行政は行政でそれをいいことにして、情報公開もあまりしていかない、言われたら仕方なくやっていくような感じで、やはりこれはどこかが引っ張っていかないといけないと思う。中堅の行政の若手が頑張ってくれたら非常にいい。こういう町をつくろうと頑張っていきたいなという意識を持った人が育っていくように、トップに立った人がそういう考えを持って中堅を育ててくれれば、中堅だって頑張りがうがある。そういうものがなければ、寒川町は10年経っても4万7千人のまま、ずっと変わらない。前から住んでいる人は自然があって川があってとても良いと言うけれど、若い人達からしたら自然と川だけでは生活できない。やはりまちづくりだったら、若い人達がどんどん来たがるような町に、そしていろいろな団体がたくさん出来るようになっていく。いろいろな自主活動をどれくらいやってくれるか、それでそういう人達がやったら、そこに来た住民が継続していくかどうかの問題、育てていく。私はそこだと思う。だから、それは箱物よりは、最後は人になってくるのかなと思う。

(川上委員) 私はこの土地で育ったというのがあるので寒川が好きだという気持ちがあると思う。でも、他の町から引っ越してきた人が果たして好きになるか、魅力のある町かと聞かれたらどうだろうと思う部分はある。視察に行った時に、団体の規模と活動の活発さをすごく感じた。それと同時に、町が協働とかを町民に求めているのか求めているのか、それすらもわからないと感じた。茅ヶ崎を見に行くと、人口の数も違うし、そのまま寒川町に求めるというのは難しいと思う。でも町が協働協働と言うのなら、町のその姿勢も見せて欲しいと思った。

(会長) 皆さんの言うように、1年2年であのような状況になったのではない。本当に10年、20年かけてあそこまで市民活動をリードしてきた。やっぱり時間かかるのは当然です。あれを見てきたからここにすぐできるなんて誰も思っていない。真似しようとする必要もないと思う。ただし、時間をかける、どこを出発点にするかそれを決めなければ、10年経とうが20年経とうが形にはならない。私は今が出発点だと思う。これを活かしながら3年後5年後10年後どうい

うふうにしていけばいいのかという議論がなければ、5年後10年後もどうどう巡りというふうになる。また委員が替わってという流れになる。どんどんそういうことで遅れていくと思う。人口規模はあまり考えてはいけないと思う。愛川町は同じような人口規模だが、サポートセンターがあって、一部公営一部民営でちゃんとやっている。広さはここの半分くらい。公民館があるが、自分達が自主的にそういう活動をしたい場が必要だという声が出て、ちゃんと作っている。確かに公民館があまり使われていないか調べる必要はあると思う。空いているのであれば、無駄な施設を作る必要はないから。生涯学習と社会教育の違いなんて、言葉は全く違うけど内容は同じじゃないかと思う、少し言い方が逃げている。今町民が求めているのはそういうことではなくて、地域の人達が、町民が、一緒になって語り合う場が必要なのであって、そこが生涯教育でもあり、社会教育でもある。そういうことなんで、こっちがどんどん枠組みを変えていくこと。視察で説明してくれた益永さんは、そういうことをずっとやってきた人で、最初の頃はほとんど行政と対立していた。行政にとっては法律がない。どうやって対応するかもわからない。だからまず拒否をする。それは法律とかルールにないからできません。できないというところに、諦めずに彼女たちはどんどん提案していく。仲間を作り、交流していく。そうすると、それが今度は中心の考え方になっていく。それで、行政を動かして協働の条例とかあるいは、最終的にはサポートセンターを作っていくので、時間をかけていくということとやっぱり出発点で我々が、方法としてそういうものを持つようになっていくものがないと、2年やって一生懸命話したけれども、何もできなかったで終わってしまうので、やっぱりどういう方向に行くのかということや、頭に皆さん思っていないと、何か進めていこうよという姿勢でいかないと、結局は2年間何もならず終わったねというふうになってしまう。苦勞、あるいは時間をかけないということでは進まないということやをここで理解していただきたいと思う。

(協委員) さっきも言ったように、北部と南部に団体がいくつあって、その一つの団体にはどれくらいの町民が参加してられて、そういう基礎的なものを調べてみようよ。みんな組織があって、そこで活動したりしてそういう仲間の付き合いというものが、今度はサポートセンターが必要なものになったりしてくる場合もある。

(江積委員) 生涯学習課に行けばそういう団体の数とか分かるのでは。

(協委員) データはあると思う。そういうのを調べて叩き台にするとか。

(佐藤委員) これは、人員規模に対して団体数がいくつあるか、そういうものでこのサポートセンターが必要かどうか判断するのか、それとも必要なものだから計画して作るのか、一回整理しておいた方がいいと思う。つまり10だったら多いのか8だったら少ないのかなんて、

バラバラだと思う。公民館に機能を持たせられるというのであれば、私はそれでいいような気がする。きっかけとして公民館とかそういうところに、窓口か何かを持たせればそれがスタートになるという感じがする。

(柳下委員) 寒川の場合は趣味の団体がほとんどで、市民活動というのは単に個人的な趣味の活動だけでなく、もっと公の視点で活動している。そこが一つ違うということと、私はそういう方達が趣味から脱して、あるいは趣味を活かしてそのまちづくりに、町文化でも芸術でも環境でも、そういったまちづくりに繋がるような活動をするのが協働のまちづくりに繋がると思う。ニーズがあるかというご質問もあった。寒川はコピー機でさえ住民が自由に使えるものが公民館に置いてない。町の人が使わせて欲しいというのにそれさえも町は置いていない。公民館の機能と市民活動センターの機能はどこが違うかという、住民がもちろん自分がお金を出して、紙はもちろん自分持ちで、でも自分達の活動に必要な印刷機がある。活動センターの何がいいかというと、他の人の活動が見られるということ。公民館にはそういう情報がない。寒川の図書館もそうだが、公民館も他の自治体の団体の活動がそこではわからない。サポートセンターはもっと隣の、県の、国の情報がある。そうすると自分の関心が広がり、いろいろなところで繋がりが生じる。私はそれが寒川町にとって、これだけではない視点がまちづくりを発展させる力になると思うので、そういう居場所・機能を持たせることも大事なことだと思う。

(管委員) 今日見させていただいて、寒川町に即したものを、将来あったらいいな、ぜひ必要だなと感じた。現状、社会福祉協議会が中心になってやっているボランティア団体が15団体、老人連合会が15団体、自治会は23団体、それぞれが使用できるもの、揃えるものがあるとすればそういったところに集まって、交流できる場がサポートセンターとなる。また趣味の会は、私の意識としては相当満杯になっている状況。そういった趣味の会とかボランティアとか仕分けしながら、いわゆるサポートセンターをどういうふうに関後構築していったら町がよくなるか、町民が自分の意見を言える、交流できる場ができたなら、そのような場所が欲しいなと思う。町全体としてのサポートセンターをもっと意識を高めなくてはいけないという話で進んでいるので、町ももちろん町長もまちづくり推進委員に話して、なんとかやってよと言ってやっているわけなので、とにかく意見を出してみて、サポートセンターが必要だから何年後かに作ってくださいという一言だっ

提案になると思う。そのために3年間なら3年間で、何をどういうふうにやったらそれができるのか。そのスタートが今になるか来年になるか、再来年になるか、そのスタートについてとか、目標を決めて青写真を決めて、それを答申するというでなくたって、一向に差し支えないと思う。

(木立委員) 果たして一箇所サポートセンターを中心部を作って、効率とか、それはないよりあった方がいいという議論もあるが、実際公民館はどこをみても、壁はぼろぼろだしひどい状態。そういういろいろな不具合がある中で、サポートセンターの意識をもっと高めるといいうのも必要だとわかっているが、公民館のように地域で利用している人達をもっと利用してもらおうというふうにしていくことが大切な部分としてある。公民館のようなところも、近場でどんどん利用度を高めるようなものを、どんどんよくしていこうという考え、そこをおろそかにして一つサポートセンターを作ってもなかなか難しいと思う。なんでここを直さないでそっちにお金を使ったんだという議論が出てくることもあると思う。

(管委員) 箱物を作るとか定めるとか一切そういうものはないと思う。南部でも北部でも借りられれば。

(木立委員) 実際にその団体なりから要望があるのかということも、大事だと思う。そこまで必要としているという強い思いがあるのならいいが、まずそこがわからないまま突き進むというのもちょっと順序が違うかなと思う。

(管委員) 公民館活動している人、ボランティアしている人と趣味でやっている人とは大きな違いがある。それらをもっと盛んにやるためにサポートセンターがあって、それを利用すればもっとベースが上がるよ、士気も上がるし、そういうことなのかなと思う。

(木立委員) それは場所ありきで、私は、組織を高めてそこから必要なものかというのが出てくるのではないかと思う。

(会長) 場所を作るというのは、かなり先のことなので、そういう機能が必要なのかということを確認したい。協働で皆さんが話し合うそういう場が必要なのかどうかという議論をしている。必要でないならば、いらないで公民館を直しましょうよという話でいいと思う。そうではなくて、公民館と違う、サポートセンターは。公民館は地域の方々のための社会教育。サポートセンターは自治と協働。本当にこれから皆さんが、また我々が地域自治を考えていきたい、あるいは参加しながら何か進めていきたい、これは公民館だけでやるというのはなかなか難しい、新しいテーマが出来ちゃうから。そうすると、そういう話し合う場、あるいは情報を交流する場、

そういうことを考えている人たちが集まる場が必要なのか議論をしたい。それをすぐ作ろうとなると難しいので。そういう場が必要と言え、これから3年後にかけてどうやっていこうか、お金がないんだから。じゃああそこ空いているところあるから、それ使えるんじゃないか、2年目に考えようとか、そういう話。あくまでも違う機能だということはまず前提にして、我々は奇しくも町の方からお願いされたわけで、自治基本条例ができた、それを皆さんがどうやって進めてくれるんですか、という課題をいただいている。だから我々は、一生懸命議論しながら自治と協働をどうやって進めるのか。新しい取り組みをしろという課題を言われているのだから、新しい取り組みは、やっぱりできない、公民館を充実すればいいという議論でいくのか、いや公民館を充実する、さらに新しい取り組みをしなければいけないのだから、自治と協働の場、そういう発想の人達を集める、そういう情報交換の場も必要なんだという議論でいくか、その辺をはっきりしたい。自治と協働も、職員がどうもまだまだそこまでいってないよ、みんなもうちょっと勉強しろと、行政もね。だからあと2年か3年は勉強の期間だよ、まだ時期尚早よ、ということであれば、私はそういう方向でもいいと思う。みんなで頑張って勉強しましょうよ、と。自治と協働をまだ語るまでもいってなかった、そういう選択もある。自治と協働を本当に理解している人は、そんなにいないと思う。名前で自治基本条例とか協働のまちづくりで一生懸命出しているが、実際にそういうことをやっているのか、そういう意識を持って仕事に取り組んでいるのか、町民の方が新しい提案をした時に、これは自治と協働に結びつくから法律やルールを変えてまで仕事をするか。そういう人はいませんよね。他の自治体でもないと思う。そういう意味では、自治と協働の学習の経験とか、そういうのはものすごく大事だと思うが、そういう学習を経験する場として、何かみんながこう自由に会える場が必要なのかどうか、そこまでですよね。作るのかどうかは、もっともっと先の問題。本当に今重要なのは、公共施設の再配置とか再修復ということで、お金がないところで、古くなってしまって耐震もうまくいっていない危険な建物を先にやる方が重要だということであれば、そちらの選択だっというふうに思う。その辺をどういうふうにするかだと思う。

(江積委員) 市民活動を例えばいろいろな課題を解決出来る方向にいくんじゃないかなと思っている。今までずっと投票率が低い、そういうのは市民活動が高くないから、低いからと、それが起因しているのではないか。自治会の加入率が低いのも、自然に市民活動が活発になれば改善されてくると思う。だから非常に市民活動というのは重要だなと、活発化させないといけないと感じている。なんらかの方策を与えてあげる必要があると思う。建物はあるものを使えばいい。

(管委員) 老人会も加入率が低い。県平均12%に比べて寒川は6%で県内最下位。

(佐藤-委員) サポートセンターが特効薬になるとは思えないが、広域ではできない隙間みたいな活動に対してワンボイスでケアが出来る窓口というのは、やはり必要だと思う。

(飯田委員) この会議が2年間で6回、この6回の中でまちづくりという将来のことを考えていくわけだが、私が思うには、お金をつくることを考えるのが必要ではないか。何をやるにもお金がかかるので、まず町として収入をどうやって上げていくのかを考えていくのも、まちづくりなのかなと思う。

(奥山委員) サポートセンターはあった方がいいのかなと思うが、その後の運営の方ですよね、結局は。先日、青年会議所で商店街を活性化させるという講師をお呼びした。商店街の空き店舗にNPO法人が集まる場所を1店舗作ったらいいんです。そこをいろいろな人が集まって、情報交換できる場ができた。そこからお祭りが生まれたり、新しいまちづくり活動、高校生が入ってきて、イベントやったりとか。そういう拠点ですかね、もちろん公民館でも十分できると思うが、まちづくりを行うための必要なサービスを提供できれば、拠点は一つでもいいし、新しく作らなくてもどこかの空き店舗でもいいし、どこかの公民館の1室でも借りられれば。それはそれで、まずあればいいのかなと感じた。後、育てるのは住民だと思うので、不満だったらもう少し大きくしてくれないかと、住民から声が上がってくると思う。町にお願いして、そこからNPO団体の方から意見が上がってくると思う、困るよという意見が。スタッフも話がわからないし、コピーも使えないし、どうにかしてくれという声があれば、最終的にいいものができればいいのかなと思う。

(副会長) まちづくり推進というのは何なのか、皆さんの話を迷いながら聞いていた。問題意識を持った人が自分で市民活動を作って、そこからまた現場で課題にぶつかって、政策としていくものだ。それを町がいかにか、自分のまちの政策として、地域の方がどう捉えるかというところがまちづくりだと思う。その時に、職員がどうなのか、町長がどうなのか、と考えていたら頭が非常に痛くなった。でも、やっぱりまちづくりは、人が地域に住んでいる人の課題をきちんと政策として町を変えていくことができるのかどうか、それで私たちが払っている税金の使われ方が正しいのかどうか、それが議論できなければまちづくりにはならないと思うので、そこまでする気は寒川町でも、議会でもする気があるのかと私は問いたい。

(久野氏：田沼委員の代理) サポートセンターは、やはりあるべきだと思う。町民活動を活性化させようとしたら、みんな学ばなければいけない。学ぶためには、情報が集まる場所が必要だと。そういう情報を集めるためには人が集まらなければいけない。その人を集めるために、コピー機だとか、パソコンがあったら

人が集まるというのであれば、初めからあのような立派なものはいらなくて、公民館を少し改造して、パソコンやコピー機なんかを置くことができれば、少額の設備投資でそのようなものができるのかなと思うし、作ることによって数値的な目標が出てくると思う。NPO法人を来年までに何本誘致しようとか集めたものを作り上げよう、利用者を何人増やそうとか、そういう数値的な管理ができるメリットがあるし、そういう管理をすることによって、町の職員も予算を頼む時、頼みやすくなるということもあるでしょうし、協働のまちづくりのための事業計画を作りやすくなるんじゃないかというところで、初めはもどきでもいいから、サポートセンターを立ち上げてみるべきではないかなと思う。

(佐藤武委員) サポートセンターは市長の提案で出来たという話がありましたが、そうやって市長自らがやってくれば一番よろしいが、町の財政も厳しいみたい。新しい箱物を作るというのは非常に難しいと思うが、できればサポートセンターも、箱物を作る前に、余裕教室とか空き教室があればそういうところの1室あるいは2室を活用して、そこから始めたらどうかと感じている。それによって町のいろいろな各種団体が交流してまた発展に繋がっていくのかなと思う。

(藤沢委員) 茅ヶ崎のサポートセンターを見学させていただきましたということで行きましたが、やはり茅ヶ崎はさすがだなと思った。箱自体は大きくないけれども、施設の利用は本当に充実していた。寒川ですぐにあのような施設が必要なのかどうかということもあるが、寒川なりのあのような施設が必要なのではないか、レベルの向上のためにも必要と思う。4万7千人に見合った公民館機能、あるいは集会所機能を超えたものを何か必要だろうという目標を立てて、これから話し合っていていただくことも必要なのかなと感じた。

(会長) ありがとうございます。多くの町民の方々がそういうまちづくりあるいは協働自治を主体的に考えていく場とか、あるいは相互にその団体がどんなことをやっているのかを改めて情報交流する場とか提供する場とか、そういった意味では何か町民活動を応援するような拠点というのはやはり充実した方がいいのではないかという方向は、共有されたということでもいいですかね。いつ作る、どこにするのかを別にしても、考え方としてそういう場は必要なんだと。方向としては、改めて町民活動を支援する、活発にするような、そういう場というようなものを目標として考えていくというような提案はこちらで考え方として、共有されたということによろしいですか。それで、他の団体、施設がどのくらい利用されているのか、実態を知りたいと思うし、それからそれは公民館を使っている人達の実態であって、新たにまちづくりをしている人達が公民館を使っている人とはちよつとずれると思う。できれば、町民活動の実態を知りたいし、ということは一

度いろいろな団体の人が集まるイベントというか、顔が見えるようなそういう交流の機会みたいなものを一回もつといいのかなと思う。それは趣味の会でもいいし、まちづくりをどんどんやってもいいし、福祉の活動をやってもいいし、環境団体でもいいし、そういう町民活動を我々はやっているよという人達が一堂に会して何か説明したりお話ししたり情報交換したり、その中でどうも拠点がないとか、自由に集まる場所があるといいねとか、コピーを自由に使えるともっともっと自分達の考え方が知らされるんだけど、みたいな意見がもし出たとすれば、そういう意見を踏まえながら2年後3年後にそれをどんどん進めていく。投票率が低くて、老人の加入率が低くて、なんかみんなやる気がないような感じがしてしまう。でも、そうではないよ、違うんだ、知らないだけだということ、みんなで集まってもっと知りましょうよと。そうしたら、すごい人がたくさんいて、すごいことをやっているよ、という何か自信を持つこともあるのかなと思うので、何か交流したり皆さんで意見交換したり、自分達のやっていることを人に知らせるということをまず手始めにやっていって、徐々にそういう施設が必要であれば、できることから徐々に徐々に進めていくみたいな、空き店舗でもいいし、空き教室でもいいし、そういうことがアイデアで出てくるので、やっぱりみんなでまちづくりというのを踏み出さないとなかなかいかないの、そのきっかけになるようなイベントなのか交流なのかわからないが、そういうことを足がかりにして、まず実態を把握して自信を持って取り組んでいくということもあるのかなと思う。

(管委員) 公民館活動の名簿からどういう活動をしたか年間報告を毎年書類があって、どういう活動をしたか、全部教育委員会へ行っている。それからボランティアのほうは、社会福祉協議会へ全部、活動内容が行っているの、それをもらえれば一番早い。公民館は利用者の会で報告を出している。

(会長) 既存の施設のそういう活動団体のデータを把握しながら、やっぱりこれからのまちづくりを考える時に、我々がっていう意識を強く持っていけないといけないと思うので、そのための町民の皆さま方が町民の発想とか考え方を元にして、色々取り組むという時代になってくる。そういう意味でぜひ交流するような機会をどうやって作っていけばいいのか、新しいテーマで交流するような機会、交流する場をどうやって作っていくのかというようなことを我々の任期中では考えていきたい。そういう方向でよろしいですかね。

(副会長) 市民団体の方達が交流する場というのは非常にいいと思うが、一つ難しいかなと思ったのは、町内で活動するよりも他所に行って活動されている方がけっこういらっしゃる。実際には広域の活動なので、寒川だからどこかだからというのはあまり関係ないのだけれど、そ

ういう方もいるので、市民活動を他所からも集めてきて寒川のことを語ってもらおうというのは、どこまで出来るかどうか少し心配になった。声掛けが十分に出来ればいろいろな人を集められるかなと思った。

(会長) 方向としては考えていくということによろしいか。

最後に、今までの議論をお聞きいただいて、町のほうでそれぞれコメントをいただきたいと思う。こちらから提案が出た時にどんな対応をお考えいただいているのか、それから全体としてここでの提言というか、考え方をまとめてお渡しした時に、どういう対応・取組が出来るのか。それから、先ほどの必要なデータは、ぜひ各委員にご配付をお願いしたい。

(樋口課長) 町として何が出来るのという部分と、事務的には上の方にまで回してというのはあるが、現実的に、確かに行政の認識の低さを感じているところはある。例えば、この会議に町長が直接来て、町長と皆さんが話し合おうよとか、そういうことがあってもいいのではと思いつつ、現実的にそれが出来ていない状況というのはどうなのかと思うところはある。サポートセンターという形を作って住民の意識を高めていくという方法もあるかもしれないし、実際の活動している団体が集まることによって、交流会のような形でこんなことやってるんだと、じゃあこのみんなの情報を共有する場、情報交換する場、それをまず設けるということだと思うが、じゃあそういう場が定期的とか決まった場所に欲しい、というところから出てくるのが本当は一番良いやり方なのかと思う。この交流会みたいな形というのは、なかなか良いのかと今、考えている。一人の課長の意見が町全体を動かせるかどうかちょっと疑問な部分はあるが、担当課長として部長と相談しながら、町長にもきちんと話をしてぜひやっていきたいと考えている。

(田代部長) 自治基本条例が制定されたことによって、町の職員がどう変わったかというところについては、情報公開しなければいけない、会議録を作らなければいけないとか、そういう面での仕事が増えたという認識は、今職員達の実感していると思うが、住民と一緒に協働をどう進めていくかということについては、意識がまだまだだと思っている。その意味では、行政も勉強不足だったということについて素直に認めながら、こういったところでの議論を真摯に受け止めて、共通認識としてやっていただいたサポートセンターのあり方、箱物の議論ではなく機能づくりとしてどう進めていくかという部分については、しっかり受け止めなくてはいけないと思っている。次回に向け

ては、行政で把握できる分については、しっかりと抑えていきながらご提示していきたい。

(会長) 職員の意識がまだまだだという、その要因・原因がどこにあると思うか、どんなところでそう感じるか。

(田代部長) 日頃の仕事の中で、それぞれの形でこういった場もそうだが、住民の方々から一つの提案は当然受け止めているところではあるが、こちらがしっかり揃っていないので受け止めきれないものが時々ある。そういう意味での住民とのコミュニケーションがしっかり取り切れていない。

(会長) 申し訳ないが、まだまだと思っているようでは町民の方もどうしていいかわからないと思ってくると思う。職員の方は行政のプロ、町民の方が毎日行政のこととか、財政のこととか、関係する制度を考えているわけではない。そうすると、双方にこれからやるぞやるぞという感じでない限り、協働なんか絶対進まないと思う。我々町民は一生懸命やってるけれども、支えの方の町が受け取らないですよ、となってしまう。サポートセンターを考える前に職員意識をどうやって変えていくか、そういう議論を真面目にやった方がいいかもしれない。だから、ここに関係する各課の職員の方に来ていただいて、我々と一緒に議論することとか。ここでの議論がどう持ち帰って、どう伝わるのかというのが大事なんですよね。一生懸命議論したけれども町民課の方が担当ですから聞いていて理解してくれた。でも他の課の人が、町民課のやっていることだから我々関係ないよ、ということでも一生懸命やっても伝わらない。その辺の意識の高揚をしていただくためにも、できれば関係する課の方に聞いていただくとか、課長が言われたように町長に来ていただいて、みなさんの意見に対して最後はコメントを言っていただくとか。いろいろな人に出てきてもらって一緒に議論するというのが協働なんで、開かれた話し合いをしつつ、みんなで職員も町民も一緒になって考えていこうよ、という機会がないと難しいかもしれませんね。

(脇委員) 行政というのは、石ころぶつけられてから動き出す。石ころぶつける役は町民なんだ。アイデアを持っているのは町民なんで、町民がしっかりしなけりゃいけないということだけは事実だ。

(江積委員) 石ころをぶつける町民の数が非常に少ない。町が悪いわけではない。その根源・責任・原因は町民にある。だから町民活動を活発にしなくてはならないという結論に私は行き着いた。

(会長) それでいきましょう。町を責めてもしょうがない。

(佐藤一委員) これは、やはり住民が盛り上げるべきだと思う。

(会長) わかりました。各担当の職員の方、大変失礼な事を申し上げて申し訳ございませんでした。しかし、皆さんが本当に熱心にお話を聞いていただいているんで

	<p>、そういう気持ちをお伝えしたかったのと、ここでの問題意識を高めていくというのがまず全てのスタートだと思うので、それが、たぶん行政を変えていくとか、必ずそれが行政を変えることに繋がっていくんで、方向としては我々が動けば地域もその後にようやくかもしれないが、行政も変わっていくんだと。そういう方向でこの議論をまた進めさせていただいて、交流する機能とか、まず相互に情報交換できたり話し合ったりできるような、そういう場とか、そういうのをどうやって作っていけばいいのかなというのをこれから議論するという事でよろしいでしょうか。</p> <p>～異議なしの声～</p> <p>○ 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回会議は、10月初旬開催予定で調整 <p>午後5時45分閉会</p>
<p>資 料</p>	<p>なし（茅ヶ崎市民活動サポートセンター視察を踏まえて議論）</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>藤 沢 喜 代 治、木 立 順 一（平成22年10月5日確定）</p>